

防災特集

防災週間：8月30日(木)～9月5日(水)

防災の日：9月1日(土)

災害から身を守るために！



自主防災組織の意義

平成7年の阪神・淡路大震災以後全国的に自主防災組織が作られています。

笠岡市では、平成16年に台風による高潮被害を受けて自主防災組織が作られ、平成19年7月現在の組織率は76・5%で全国平均66・9%、県平均45・8%を上回っています。

この組織率の高さから、自分の身は自分で守る「自助」と地域が共同で助け合う「共助」の連携が大切であるという市民の防災活動意識の高揚が伺われます。

今後は、未組織の地域に自主防災組織の必要性を訴えていくとともに、市民と行政が一体となった災害に強いまちづくりを確立していくことが課題です。

自主防災組織の必要性

阪神・淡路大震災により、生き埋

自主防災組織の役割

めや建物等に閉じこめられた人のうち、約95%は、自力で脱出したか、または家族や隣人によって救助されており、専門の救助隊に助けられたのは、わずかに1.7%に止まっています。このことから、災害が大きければ大きいほど、防災関係機関及び道路や橋梁等の公共施設が被害を受けることから、地域住民が相互に助け合い、人命救助に努めることが被害の軽減に大きな役割りを果たすことがわかります。

自主防災組織の役割としては、地域の実情に沿った防災活動から取り組みことなどがあります。災害発生時に、災害による被害を防止、軽減するため、平常時から防災知識の普及、地域の災害危険箇所の把握、防災訓練の実施、火気使用設備器具等の点検、防災用資機材の整備、情報の収集・伝達、出火防止、初期消火、

地域住民の避難誘導・救出・救護・給水等の防災活動に取り組みまします。

風水害(高潮)、土砂災害に備えよう

台風が襲来する時期です。笠岡市は、平成16年の台風16号では、潮位が高くなる「大潮」と重なり、未曾有の高潮となり、約千世帯が床下・床上浸水の被害を受けました。

また、一瞬にして人命や大切な財産を奪い去る土砂災害のほとんどは、大雨がきっかけとなっています。一時間に二十ミリ以上、または降り始めてから百ミリ以上の降雨量になると、土石流や地すべり、崖崩れなどの土砂災害に対する十分な注意が必要です。災害はいつ私たちの身に降り掛かってくるかわかりません。その発生を未然に防ぐことはできませんが、日頃からの備えを万全にすることで、被害を最小限に食い止めることはできます。台風や集中豪雨による浸水は一気に押し寄せてきます。避難の遅れは生命の危機につながります。少しでも異常を感じたときは、隣近所で声をかけあい、早め早めに行動することが大切です。また、日頃から災害が発生した場合を想定して、家族会議の機会をもち、災害が

津波災害に備えよう

あった場合に何処に避難するか等、各家庭で確認していくことも重要です。

東南海・南海地震は、過去にもおむね百～百五十年周期で繰り返してきており、2030年までの発生確率は、50～70%とされています。もし、これらの地震が実際に起きると、揺ればかりでなく大きな津波被害を生じる恐れがあります。東南海・南海地震が発生した場合、笠岡市は「大津波」(三メートル以上)若しくは満潮時に陸上の浸水深が二メートル以上の津波が予想される地域として、国の中央防災会議で、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されています。

押し寄せる津波から身を守るには、避難する以外に方法はありません。強い地震や長い揺れを感じたら、ただちに海岸から離れ、高台などの安全な場所に避難してください。

なお、笠岡市が現在、避難所に指定している施設の中には、海岸線から近いために津波災害の避難所としては適さない施設もあります。常に新しい災害情報を入手し、津波発生の場合は、高台への避難を心がけてください。